

事後評価報告書

CONCERT-Japan プロジェクト(欧州連合(EU)との日本-EU 共同研究)「災害に対する回復力」領域

(支援期間:平成 25~26 年度)

1. 研究課題名: 「災害対応型都市計画の実態に関する国際比較研究」

2. 研究代表者名:

日本側: 東北大学 大学院工学研究科 准教授 姥浦 道生

相手側: ドルトムント工科大学 空間計画研究所 所長 Stefan Greiving(ドイツ)

コシツェ地域開発支援機構 ディレクター Jaroslav Tesliar(スロバキア)

3. 総合評価: B

4. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

本研究は、災害リスクに対応した都市計画・都市利用計画の策定理論の構築と活用可能性の提案、ならびに激甚災害後の復興に関わる都市計画的対応を比較調査することにより、復興都市計画のあるべき姿を展望することを目的としている。

日本、ドイツ、スロバキア各国の大規模災害の経験から復興に関する事例集を作成し、その論点に関する分析が並列的かつ横断的に行われており、リスクマネジメントの知見を空間的アプローチに適応した「統合化アプローチ」へ展開させたことは具体的な成果として評価できる。また、米国ハリケーンサンディ等の世界各国における大規模災害の事例を含めた研究成果を共著の書籍として出版を予定していることから、本研究成果が広まっていくことが期待される。但し、終了報告書が提出された時点の成果は、各国での報告という形に留まったことは残念であり、今後、国際学術誌への論文発表も望まれる。

(2) 交流活動の評価について

2013 年に東北大学、2014 年および 2015 年にはドルトムント大学でワークショップを開催するなど、各国における研究者交流を実施している。また、海外からの招聘には東北被災地の視察を盛り込むなど、フィールドワークを踏まえた交流を行なっている。また、若手研究者の一人が日独比較研究で博士論文をまとめるに至ったことは評価できる。一方、相手国側のメンバーが 3 名に留まっており、若干小規模の交流活動となっている。人材育成を目的とした日本から海外への若手研究者の派遣を実施するなど、もう少し幅広い人的交流が望まれる。また、交流活動におけるスロバキア側研究チームの具体的な貢献度が終了報告書からは判りにくい。